

石川エリアの観光振興

多くの魅力的な観光資源を持つうるま市ですが、来訪者の滞在時間が短く、観光による経済波及効果は十分とは言えません。

そこで私は、現在進行中の与勝地区のリゾート施設開発に加え、うるま市のゲートウェイとなる石川IC周辺に、温泉施設や無料の足湯を整備することを、市議会にて提案しています。



写真はイメージです



©うるま市観光物産協会

温泉の導入は、県内外のみならず海外からの観光客の誘致にもつながり、費用対効果や地域経済への波及効果が期待できます。

長周新聞
2024年4月16日号



©長周新聞社



▲ 沖縄防衛局への説明会の要請

琉球新報
2024年2月16日号

©琉球新報社

議会活動報告

市民も気軽に楽しめる観光資源を作り、観光を通じて税収を増やし、福祉や子育て支援に還元する。こうした地域経営こそ、うるまの未来に必要であると考えます。



編集・発行
うるま市議会議員
マカベ朝弘
あさひろ



陸自訓練場計画を白紙撤回

東山ゴルフ場跡地に防衛省が計画した、陸上自衛隊の訓練場建設は、安心・安全な生活への影響が懸念されるのみならず、市民の尊厳をおびやかすものでした。

市議会において令和6年2月定例会にて可決された、「うるま市石川地域における自衛隊訓練場整備計画の断念を求める意見書」を、沖縄防衛局伊藤局長に対し手交。

旭区を皮切りに、地域自治会から始まった住民の結束が、市議会とともに国策を覆す力となりました。私たちの地域は、住民みんなが家族のような親しい関係です。子ども、孫の世代までこの環境を守っていくことが、私たちの世代の責任、使命です。

石川橋川沿い遊歩道の整備

未舗装の遊歩道には植物が生い茂り、児童生徒の通学時の安全確保が長年の課題となっていました。

令和7年9月定例会にて提案した本件について、喜屋武力県議とタッグを組み、沖縄県中部土木事務所に要請、遊歩道の舗装予算の計上を実現しました。令和8年1月から整備が実施され、安全な通学環境が整いました。

BEFORE



AFTER



自転車やシニアカーが安全に通行できるスロープも設置。こちらは次年度予算に計上する予定で再度申請中です。



スロープ



©Google Maps

山城体育館の解体・後利用

老朽化により危険な状況となっていた、山城区児童体育館の取り壊し予算が組まれました。令和8年度に解体工事が実施される予定です。解体後の土地活用については、「地域に還元できる使用目的」の実現を、行政側に訴えかけていきます。



※画像はイメージです

山城・嘉手苺公園の整備

山城・嘉手苺の2区には、行政区内に公園および避難場所がありません。自治会を通じて切実な要望を受け、市議会において提言してきました。この公園整備が近々開始される予定です。舞台や遊具を備え、子ども・高齢者をはじめとした市民の憩いと交流の場、防災倉庫を備えた災害時の一時避難場所として活用されます。

市民の
声を
行政へ!



石川のまちづくり



出典：石川地域まちづくり推進事業

石川庁舎周辺の利活用

地域のみなさまとの対話の中で、公共機能の存続が強く望まれていることが判明しました。これを受け、当初の「大規模再開発計画」が市民の声や市場の反応を反映した「実証実験型アプローチ」へ見直されました。今後も納得のいく土地活用の提言に取り組んでいきます。



出典：うるま市道路整備プログラム

赤崎交差点の渋滞緩和

慢性的な渋滞が課題となっていた赤崎交差点。短期整備路線として、「都市計画道路石川西線と石川ICを結び赤崎交差点の渋滞緩和を図る路線」の整備事業がスタートします。石川西線から恩納村方面へのインター入口に直接繋がる、橋を含む路線を整備し、交通量の分散を図ります。

